

図書館だより

第4号

2015年(平成27年)11月25日発行

少し寒さを感じる候となりました。薬剤師国家試験まで、あと100日を切りました。準備の方はいかがでしょうか。どうぞ健康に気を付けられ、思いっきり実力を発揮できるように十分にそなえてください。「成るは成るの日に成るにあらず」です。

さて、『図書館だより』も第4号となりました。日本薬科大学図書館ではこれからも館長以下、さいたま、お茶の水の両キャンパスの図書館職員一同、一丸となって、学生諸君、そして研究者の皆様のサポートをすべく、業務に邁進いたします所存です。その道標として、ほぼ隔月に『図書館だより』をお届けし、図書館の活動状況や催し物のお知らせを続けます。是非活用してください。(船山)

■お知らせ

《書評コンテストの審査結果が出ました》

6月末から学生の皆様に呼びかけていた書評コンテストへの応募を10月13日で締め切りました。今年は19名の応募を頂き、図書館長から委嘱を受けた6人の審査委員による厳正な審査の結果、次の通り、各賞を決定いたしました。各賞の受賞者には、賞状と副賞の図書カードの他、最優秀賞と優秀賞には記念の楯が贈られます。

12月14日(月)13時から、丁学長による表彰式が、学長室で行われます。(船山)

最優秀賞：兼房 采加 さん(薬学科2年生) 「証」／エンジェルフライト 国際靈柩送還士

優秀賞：津之浦 穂野香 さん(薬学科3年生) 気遣いとは何か／仕事も人間関係もうまくいく「気遣い」のキホン

奨励賞：石合 崇人 さん(薬学科2年生) 竜馬と出会って／竜馬がゆく

津越 幸枝 さん(薬学科4年生) 未来への投資と方針／金持ち父さん貧乏父さん

高橋 かおり さん(医療ビジネス薬科学科3年生) マナーに縛られない販売技術／売れる販売員の接客ルール

(入賞区分：受賞者氏名(学科学年) 書評の表題／書評対象とした本の書名)

《図書館の和室にて学園祭の茶会が催されました》

11月1日(日)の学園祭(日葉祭)で、裏千家茶道部による「大寄せの茶会」が、図書館の和室を使って催されました。今年も大盛況で、学内外の大勢のお客様にお越し頂きました。茶道部は、毎週水曜日を活動日として和室を利用しておらず、学園祭が近づく10月には、その活動日数も増え、学園祭前日には、遅くまで会場設営を行い、また、当日は朝早くから準備を整え、和服姿のお客様をおもてなししていました。

図書館の和室は、茶道部以外にも、華道部が月曜日、将棋同好会が火曜日と金曜日、着付サークルが火曜日を主な活動日として利用されています。

また、2間ある和室は、ラーニングコモンズのグループ学習の場などとして、アクティブラーニングにも利用されております。皆様も、ときには、靴を脱いで、畳の上でのゼミ、部活動、グループ活動や学習、ミーティングなどいかがでしょうか。是非、図書館の和室をご活用下さい。(齋藤)



《後期定期試験に伴い早期開館してみました》

図書館では、これまでに、皆様の要望、意見を直接伺い、実行可能な事には「即」対応して参りました。

今回は、開館時間の延長を望む声に少しでもお応えしようと、学生の皆様に定期試験に向けての勉強の場などとして利用して頂くために、10月21日～11月6日の期間、やや早めの朝8時に開館してみました。ご活用頂けましたでしょうか？

これからも、各学年の後期定期試験の日程に合わせて、開館時刻を早める予定をしております。是非、爽やかな朝、静寂な環境を提供する図書館をご利用頂き、学習の効果と成果を上げて下さい。(齋藤)

《お茶の水キャンパス図書室より》

いよいよ秋も深まり一日の気温の差が一段と深まるこの頃、温かい珈琲を飲みながら読む本は穏やかな気持ちにさせてくれます。

キャリア推進室には『敬語入門』渡辺由佳著、『病院業界の動向とカラクリがよ～くわかる本』中村恵二/鞍賀明子著、『調剤薬局の動向とカラクリがよ～くわかる本』藤田道男著等があります。どの学年からでも勉強になると思いますので、是非見に来て下さい。

最近、お茶の水キャンパス2号館1階の図書室に、『新書コーナー』、『文庫本コーナー』を設置したのに気付かれていますか？気軽に立ち寄ってみて下さい。そして、出入り口近くにワゴンを設置しました、学生から使わなくなった本を提供したいとの要望が複数有りましたので、そちらに持ってきて下さい。後輩のために有効活用させて頂きます。(教職員の方からも受け付けておりますので、宜しければお持ち下さい。)

感染症の流行が始まってきたと聞きますが、皆さん風邪等に気を付けてお過ごし下さい。(鈴木)

■新着図書より

《さいたまキャンパス》

講談社ブルーバックスの新刊が続々と入荷しております。青色発光ダイオードの開発に成功し、様々な応用への道を開いたことで2014年にノーベル物理学賞を受賞された天野浩先生の著書『青色LEDの世界』も入荷しました。科学の世界を楽しんで下さい。

また、糖尿病や冷え性などの病気になる食事や生活習慣を紹介し、その予防に役立てる『病気のなり方おしえます(取扱注意)』と言うユニークなタイトルの本も入荷しております。(山口・河野)

《お茶の水キャンパス》

今年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生について書かれた『大村智』が入荷しています。ゴルフ場の土から発見された寄生虫薬「イベルメクチン」は線虫の幼虫が目に侵入して失明する「オンコセルカ症」の特効薬として多くの人を救っています。また、お茶の水図書室にもブルーバックスの新刊が届いています。是非、2号館の1階図書室「新書コーナー」を覗いてみて下さい。(太田)



■著作権ミニ知識

Q: 既存の論文を参考にして論文を作成する時、気をつけなければいけない点は?

A: まず、既存の論文(外国の論文)の内容の紹介を目的として、そのかなりの部分を利用する時には、著作権法上、「翻訳権」を侵害するおそれがあるため、著作権者に承諾を得ます。自説を補強したり、これまでの研究の経緯、背景、自説の反対説として利用する時は、「引用」として、要件を満たすようにすれば、著作権者に承諾を得ないで、論文を作成することが可能です。既存の論文のデータだけを利用したり、参考にして異なった論文を作成したりするなら、著作権者の承諾を得なくとも、既存の著作物の侵害には当たりません。無用なトラブルを回避するためには、文末に、参考文献を掲げ、出典を明らかにするのがよいでしょう。(河野)

■第3回ミニお宝展

《丁学長の貴重な蔵書を展示しているぞ!》

皆さんは、ジギタリスや、ウィザリングがその作用を科学的に解明したことを知っていると思います。彼は成果を1冊の本にまとめて発表しました。1785年のことでした。今回のミニお宝展においては、いずれも本学学長の丁宗鉄先生の所蔵されている貴重な御本を拝借して展示しています。ウィザリングの本の復刻版は日本においてファクシミリ版(もとの本をそのまま写した形の出版)として出版されたもの、そしてもう1冊はドイツ語に翻訳されてドイツで出版されたものです。日本で出版されたものには、もとの本の附録であるジギタリスの図版が原寸大で復刻されていますので、そのコピーも展示してあります。

また、その当時の薬用植物学や薬学を知っていただこうと、1633年に出版された生薬本の復刻版と1737年に出版された薬の本のオリジナルも展示していますのであわせて御覧ください。なお、ウィザリングの発表の約100年前の17世紀に出版された生薬の本も展示しています。日本ではなかなか見ることができない堂々としたフォリオ判の本で、やはり丁先生の所蔵品です。この本にジギタリスの効用についての記述があるのですが、なんとウィザリングより100年前の記載です。(船山)

■図書館長のつぶやき (4)

《ノーベル賞受賞者の弟子になってしまった私》

2015年10月5日(月)の夕方、北里の先生から一本の電話がありました。「大変なことになった」と焦っておられます。何と、私が1980年代に7年間奉職していた北里研究所の上司であった大村智先生(80歳)のノーベル賞受賞が決定したとのこと。とりあえず港区白金の北里研究所にかけつけましたが、驚くと同時に、ついに現実になったのだなあとと思いました。7月には大村先生の満80歳(傘寿)の誕生会があり、8月には新刊をお送りした御礼の手紙を頂戴したばかりでした。先生の手がけた抗生物質はアフリカの風土病の恐怖から数億人を救い、イヌのフィラリアを無くしました。大村先生とアメリカの大製薬会社メルク社との協同によるイベルメクチンの開発がその受賞理由。薬学関係者としてまことの慶事でしょう。いずれ展示にて説明いたしく存じます。

私は北里研究所で何をやっていたかと申しますと、抗がん性抗生物質の探索研究。在職中に10系統27種の新しい抗生物質に名前を付けて世の中に出しましたが、当初の上司の梅澤巖先生が急逝された後、大村先生の研究グループの一員となりました。あらためて調べてみると、大村先生との共著論文も19報あることがわかりました。これらの論文は今後お宝になりましょうか。(船山)